

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000413		
法人名	社会福祉法人北見有愛会		
事業所名	グループホームゆう&あいひまわり		
所在地	北見市花園町38番地6		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果市町村受理日	平成27年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	index.php?action=kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000413
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成27年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆう&あいひまわりでは事業所理念である「感謝」の気持ちを第一として、利用者様それぞれが最期の時までその人らしく、笑顔で過ごすことができるように努めております。また、日常生活の中でも施設らしくない家庭的な雰囲気作りに努め、職員と笑ったり、泣いたりして共に過ごすことで、認知症状の緩和に繋げることができております。職員については、利用者やご家族・関係する方々は勿論、同僚に対しても自分の行動や言動で不快な気持ちにさせないよう、人として謙虚・反省の気持ちを忘れないよう自分を見つめ直し、いち介護職員としての自覚・向上心を高めていけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市花園地区の住宅街に立地する当事業所は開設当初より地域住民との関係は良好で様々な協力を得ることが出来ています。特に運営推進会議に町内会で専任の推進委員3名を選出して会議に参加する体制が取られています。今年度、避難訓練に併せて運営推進委員以外に町内会・近隣住民が参加した消火訓練を実施し、消火器の使用方法を学び、相互に防災への意識を高めています。7月からの現管理者は自分と地域の繋がりを推進していけるよう活動の輪を広げ、更なる関係構築に努めています。管理者・職員は利用者の高齢化に伴い介護度も上がり、最後までその人らしい生活が送れるようターミナルケアを含めて利用者本位のケアを心がけています。その中で代表者は職員の質の向上を目標の1つに掲げており、法人内研修、外部研修への参加や資格取得支援体制を整えると共に、管理者は定期的に内部研修を充実させ、職員の知識向上や自主性、長所を伸ばす取り組みを重ねています。又、職員はクリスマス・節分等の行事にはフロアーにいる利用者だけではなく寝たきりの利用者も季節や楽しみを共有出来るようにと居室を訪問し、写真を撮ったり歌を歌う等、柔軟な行動で利用者を支えています。利用者の言葉から作られた事業所理念「感謝」を管理者・職員は常に意識の基に置き、グループホーム本来の役割や介護とは何かを追求しながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『人は「感謝」をする気持ちを忘れると、不満ばかり言うようになる。』と、ある利用者の方より教わった事から「感謝」を事業所理念としている。誰もが納得できる言葉であり、自分達の言動や行動を戒め、日常の出来事や業務を振り返りながら職員で理念を共有実践する事に取り組んでいる。	利用者の言葉から作られた事業所理念を職員は共有し、内部研修を通じて感謝の気持ちを常に意識の基に置き、実践に取り組んでいます。又、管理者は会議時や日常業務の中で理念の大切さを伝えていきます。理念は玄関・廊下・各ユニットフロアーに掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事等に、利用者の方々と毎年参加させて頂いている。屋外の行事では車椅子や歩行が不安定な方でも参加しやすい様に、場所や座席位置などに配慮をして頂き、多くの理解や協力を得て交流させて頂いている。	町内会とは開設当初より良好な関係を築いており、相互行事での交流や日常的に近隣の方が気軽に立ち寄ってくれる関係も出ています。今年度、避難訓練に併せて近隣住民も参加した消火訓練を実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で福祉施設についての質問や相談、認知症状についての疑問に思う事などを地域包括支援センターの方々の協力や助言を得ながら、お話する機会を設け、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会独自で運営推進委員を設けて頂いており、日頃より必要に応じて相談や助言を頂くほか、災害時の対応についても協力を頂き、助けて頂きながらより良いサービスの提供に繋げていけるよう努めている。	運営推進会議は年6回、町内会役員・家族・地域包括支援センター職員・市職員等の参加を得て開催し、事業報告・ヒヤリハット・事故報告等で意見や助言でサービス向上に努めています。会議を兼ねて避難訓練を実施し、消防署と連携を図り安全管理に努めています。議事録は閲覧にて共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所独自での判断が困難な場合は質問、報告、相談を随時行い、事業運営に取り組んでいる。また、市担当の方から入居に関する相談等があれば、出来る限りの協力を行えるよう取り組んでいる。	市担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議や日常的に情報交換・相談等で連絡を取り合いながら連携を深め運営に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的な研修を行っている。全職員が拘束や虐待について理解を深め、判断が難しい場面についても自己判断で行動はせず、職員間で話し合い意見を出し合って、共通の認識のもとケアを行うよう努めている。	職員は内部研修を通じて身体拘束となる具体的な行為について共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。管理者は不適切なケアについても職員に注意喚起を促し、常に相手の気持ちになるよう指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的な研修を行っている。基本方針を共有認識する事他にも、日常業務において、利用者にはアザ等が見られた場合にはヒヤリハットを作成し、本人の身体的特徴と虐待にならぬようケアの仕方を職員間で話し合い努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行って理解を深めている他にも、講習会等に参加し助言や相談に対応できるよう知識を深めるように努めている。また、講習会へ参加した職員は会議の際に報告を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や退去の際には書面に沿った説明を行いながら、ご理解を頂いた上で取り交わしを行い「不明な点はいつでもご相談下さい」と伝えている。また、改定の際にも同様に説明を行い、ご理解を頂いた上で同意書の署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際には、ご本人の状態報告を行う事は勿論、行事や日常の中での喜ばれた事や楽しそうに過ごされた事等も報告している。また、何か不安な事があれば、気軽にご連絡を頂くよう伝えたいと共に、必要に合わせ電話連絡を行い、要望等に早期に対応できるよう努めている。	家族の来訪時を大切な機会と捉え、利用者の様子を伝える中で意見・要望を言って貰えるよう努めています。年4回、ひまわり通信を発行し、遠方の家族には電話やお便りで利用者の近況を伝えていきます。玄関には意見箱を設置しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の管理職による会議や施設内の定期的な会議を行う他、日常的に職員と業務や会話の機会を作る事でコミュニケーションや業務提案等に関する意見を聞き反映させるよう心掛けている。	法人の全体会議や毎月の職員会議、日常業務の中で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させています。又、管理者との年2回の他、必要に応じて個人面談の機会を設けています。職員とのコミュニケーションは良好で、各ユニットリーダーと共に職員教育に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職会議は毎月定期的に行われており、各事業所での状況や相談等が行いやすい環境にある。また、定期的な給与や条件の見直しも法人として行っており、その他資格取得支援も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は目標の一つとして職員の質の向上を掲げており、資格取得への助成や必要な研修には積極的に参加できるよう体制も整えている。また、希望があれば外部研修に参加する支援や、管理者やリーダーも職員と話し合う時間を設け、各職員の長所を伸ばせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと定期的な会議が行われ、より良いサービスを行えるようにと意見交換の場を整えて、業務に反映するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居利用開始前にご家族及び関係施設に協力をお願いし、数回の面談を行う事で、顔を見た事がある人がいるという親近感を持って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、入居利用開始前に何度か電話連絡や施設見学、時にはご家庭に訪問する事で、利用開始の際には遠慮なく何でも話会える関係となれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添った支援を行えるよう、ご本人、ご家族や関係機関の方と利用開始前の面談の際に状態の把握とご希望の聞き取りを行い、様々な対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち、お互いを助け合っていくという気持ちを持ちながら利用者の方々と接し自己決定を尊重している。実際に日常会話の中から生活の知恵や人としてのあり方等学ばせて頂く事が多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事等においてもご家族の協力をお願いし、共に過ごせる時間を持つよう心掛けている。また、サービスの提供のあり方や施設運営に関しても、その都度ご家族へ相談を行い状況報告も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所され、ご本人とゆっくりとした時間を過ごして頂く他にも、外出準備や送迎等を行い、支援している。一方で、ご家族が本人の身体状況や精神状況を心配し、遠慮しがちな様子も時折見られるため、出来る限りの協力をさせて頂く事をお伝えしている。	入居前に通所していたデイサービスや馴染みの美容院へ出掛けたり知人の来訪もあり、関係継続が出来るよう努めています。又、編み物や塗り絵・読書を続けている利用者の生活習慣を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の認知症レベルや身体的状況が異なるため、利用者同士の関わり合いが難しい方もいるものの、職員が仲介に入りお手伝いをするなどして馴染みの関係が保てるよう心掛けて支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後についても、困り事や必要な時にはいつでも相談に応じられるようお願いしているが、その後ご家族から電話を頂くなどして、相談や近況報告を受けたりしている。		
Ⅲ					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常でのご本人との会話の中やご家族知人等からお話を伺い意向の把握に努めている。また、これまでの生き方を尊重した支援が行えるよう、職員間やご家族と検討し理解できるように努めている。	職員は日常生活の中での会話や家族、知人からの情報等から本人の意向を把握し、希望や思いに近づけられるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りは勿論、利用開始後についても日常会話で聞いた話をご家族の面会の際に報告や確認を行い、好みや馴染みの事や物等の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より個々の状態把握は出来ており、出来るだけ自分のペースで生活を送れるよう支援している。また些細な事でも変化が見られた場合には、その都度話し合いを行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを行い、ご本人やご家族とお話する機会を設け、希望を組み入れながら職員皆で検討のもとプランを作成し、状況の変化に即した評価を随時行っている。	定期見直しは3ヶ月を基本とし、アセスメントやモニタリング、本人が参加するサービス担当者会議を行い、本人・家族・職員の意見を反映した介護計画を作成しています。又、利用者の状態変化に応じて評価し、現状に即した介護計画になっています。プランはファイルで確認できるようになっており、統一したケアに繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容以外にも表情や仕草、言動等をありのまま記録している。また申し送り時に気づいた点を職員間で話し合い、プラン作成の際にその情報を確認し見直し・検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアという視点をもとに、入院時の付き添いやご本人ご家族の希望により、職員の協力が必要な際には積極的に協力できる事をお伝えし、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護や制度を活用し住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援している。その他、デイサービスを利用して頂いたり、馴染みの医療機関を利用して頂き主治医と連携する事で安心した生活を送れるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関やご本人ご家族希望の医療機関の通院支援を行っており、受診の際には職員が同行して主治医との関係構築と急変時の受け入れ協力等を得られている。	利用者、家族の希望を聞きかかりつけ医による受診を職員が同行し利用者の状況を伝え、適切な医療が受けられるように支援しています。看護師が毎週金曜日に訪問し、安心な健康管理に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を導入し看護師による健康状態の確認を行っている。また個別に訪問看護の契約も可能であり、主治医との電話相談や助言・指示を頂く等連携を取った支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し医療機関に日常の様子や認知症状等の情報提供を行っている。入院中についても定期的な面会をしたり、ご家族や病院関係者と連絡を取るなどして治療が円滑に進み、ご家族の不安になる事のないよう支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からターミナルケアについての事業所指針等の説明を行っている。またご本人の状態が変わる際にはご本人やご家族、主治医、SW等との連携を図り、それぞれができる事の説明をして、出来るだけ希望に添った支援が行えるよう取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については、契約時に利用者、家族に説明を行い、症状の進行度合いによりその都度同意を得ています。医師や関係者と連携を望むケアが受けられるように取り組んでいます。職員への研修は計画的に行い、知識の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所作成のマニュアルをもとに、日々の申し送りや会議等で話し合いを行って、職員全員が共通認識のもと緊急対応できるよう努めている。また、外部研修に参加した際には会議の場で報告を行い、他職員に指導し学ぶ機会も設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対するマニュアルを作成し、見直しや訓練を定期的に行っている。また、町内会や近隣の方の協力も得られ、避難場所や見守り等の体制も整備されている。	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を消防署職員の立会いのもと、町内会役員や近隣住民の協力を得ながら実施しています。	防災、地震、風水害時のマニュアルは整備されていますが、停電に対する体制作りを期待します。
IV					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	客観的な視点から自分の位置を見るよう意識し、介護する側として一方的な会話とならないよう努めている。また、職員同士で声を掛け合い情報を共有する事で、利用者それぞれに合わせた声掛けや支援を行っている。	管理者は、日常から利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう声かけや、行動を職員に指導しています。自分がされたら、自分の親だったらと考えることを求め、適切な対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意見を尊重し、それぞれの興味や話題を提供する事でさりげない意思決定を出来る場面をつくり、利用者本位の生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとの生活習慣を把握し、利用者それぞれに職員が合わせるよう支援している。自ら進んで何かをしたがらない、する事が困難な方については、ゆっくりとお話する時間を設けたり、職員と一緒に何かをする時間を設け、できるだけ自分のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの意志を尊重し、必要時には声掛けや準備、お手伝いを行っている。また、必要に応じて職員とご家族で協力しながら、衣類や生活用品を準備するなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の誕生会を開催する際には、当日にご本人が希望された食べ物を提供する計画を立てるなど、一緒に行っている。またその他の行事の際にも季節に添った物を提供している。日頃より準備の際にもできる範囲でお手伝いをして頂いている。	毎日の食事は近隣の銀河食堂から運ばれ、利用者に合わせて刻み食・とろみ食等の提供は職員により行われています。希望があれば随時献立に取り入れられたり、楽しい時間になるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の他にも食事中の状況や嚥下状況等も日誌に記入し、申し送り時に職員間で情報の共有を行い把握するよう努めている。また、食欲や水分量低下等においては主治医へ相談を行うなどして支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けや準備を行い、歯磨きや義歯洗浄等を行っている。また、個別に受診等の検討を行っている他、外部の研修会等にも参加している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の日々の状況を職員間で把握し、申し送り等で情報を共有している。また、記録表から排泄パターンの把握等を行い、状況に合わせた対応や希望時にトイレでの排泄が行えるよう支援をしている。	排泄記録を取り、パターンを把握して時間誘導等、個別に対応できるように努めています。なるべく自立してトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の飲水量の記録や排便表により状態の把握を行い、腹部マッサージや乳製品をとるなどして便秘緩和に努める他、必要に応じて主治医へ相談を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望時に入浴して頂けるよう支援しながら、声掛けや体調を伺い定期的な入浴に努めている。入浴時の要望があった際には対応できるよう努め、楽しみながら安全で安心した入浴をして頂けるよう支援している。	入浴は週2回以上を目安に本人の希望を優先し、利用者一人ひとりの楽しみになるような入浴支援を心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下がみられる方や体調が優れない時には状況に応じて休息を促したり、就寝時刻は個々の習慣を尊重した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の記録や処方箋は職員全員が確認し、いつでも再確認できるよう手の届く所に置いてある。また、誤薬がないよう内服時は確認を怠らないよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常の会話の中、ご家族からお話を伺うなどしてご本人の好みの事ややりたい事を把握し、無理のない程度に行って頂いたり、職員と共に楽しむなど支援している。また、健康に支障のない程度に嗜好品を楽しむ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は気軽に行きたい場所へ出かけていたが、状態の悪化により気軽に外出できない方も増えてきている。しかしながら、ご家族へ相談等を行いながら、状態に合わせ個別に外出支援を行っている。	散歩、買い物の他菊まつり見学は家族の協力を得ながら支援をしています。隣接された事業所の畑で野菜を育てるなど、なるべく外気に触れる機会を増やしています。外出できない利用者には、居室で楽しめる工夫がされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の額は、ご家族の希望もあり、ほぼ全ての利用者の方の管理を施設で行っているが、ご本人が持っている方もおり、外出支援の際に自分で好きな物を選ぶ等、個々に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族やご友人に電話する事ができる。また手紙のやり取りも郵便局が近いため、希望があればいつでも対応可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかな雰囲気を保つよう生活感を失くさない空間づくりに努めている。季節に応じた飾り等を作る際には、利用者の方にもお手伝いをして頂くなどしている。また、飾り付けを行う時にも意見を伺いながら、相談して掲示を行うなどしている。	居間や廊下には、利用者の干支で作られた名前や切り絵、行事の写真が掲示され、飾り付けは利用者と職員が一緒に行い、彩りと潤いを与え、楽しく過ごせるようになっていきます。又、家庭的な雰囲気を大切にしており時間に追われない利用者本位の生活が送れるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで休息を取ったり、塗り絵や編み物、テレビや本を読むなど思い思いの場所で過ごされているが、介助が必要な方も職員と一緒に本を読まれたり、歌を歌うなどして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や人形、生活用品を持ち込んで頂き、ご家族の写真を思うように飾るなどして、自分らしさを損なわないよう、安心して落ち着いた雰囲気の中で生活ができるようにしている。	利用者一人ひとりの居室には、使い慣れたベット、ソファ、テレビ、冷蔵庫、位牌等が持ち込まれ自分らしく居心地良く暮らせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい位置に時計やカレンダーを配置し、利用者の状態に合わせ声掛けや見守りを行う事により、混乱のないよう安心して生活を送って頂いている。		